

震災関連記事のみの抜粋です

中外雑記

臨黄

震源地周辺末寺に大被害

●**臨黄各派** 十七日早朝に近畿圏を襲った“兵庫県南部地震”-。妙心寺では塔頭寺院で壁の一部が剥がれ落ちたり、灯籠、墓石が倒れるなど目立った被害が出たところもあったものの、解体修理中の大庫裡など諸堂には特に大きな被害はなかった。ただし、涅槃堂の位牌はかなり倒れてしまったという。宇治の萬福寺では開山堂（重文）の壁にひび割れが入るなど、諸堂に被害が少なからずみられ、「二月二十日から始まる定期宗会で早速、善後策を協議することになるでしょう」（武内修邦庶務部長）とのこと

▽京都の本山の被災状況もさることながら、気になるのは震源地に近い神戸周辺の末寺の状況。地震直後で電話が通じにくいため、十七日現在ではまだ確たる現地の情報が入らず、以下は本山などに伝えられてきた断片的な間接情報だが、妙心寺派では西宮の海清寺や神戸の祥福寺でかなりの被害があったという。南禅寺派では本山が把握したところによると、神戸市須磨区の慶雲寺（石井宗真住職）で本堂の屋根瓦がずり落ちて空が覗けるような状態になった、とのこと。また、今回の地震の震源地淡路島にある黄檗宗の国清寺（直原玉青住職）では文殊菩薩像が倒壊し、開山堂の壁が崩れるなどの大被害があった。黄檗山にはその他にも神戸市内の末寺から、裏山の崖が崩れたり、堂宇の屋根がずり落ちるなどの被害報告が伝えられている。

浄土

兵庫中心に地震の被害が

●**浄土宗** 十七日午前五時四十六分頃、関西地方を中心に中部、中国、四国地方など広域を襲った兵庫県南部地震は十七日午後三時現在で五百人以上の死者を出すなど大きな被害に見舞われている。浄土宗でも同日、社会局を中心に被害状況の情報集めに追われた。社会局では、近畿地区各教区のほか、近畿周辺の岡山、伊勢、福井、南海の各教区に被害状況の情報を得るために電話を入れ続けているものの、電話がパニック状態で先方にかからず、職員らも断片的に先方から入ってくる電話に対応していた。成田有恒宗務総長も同日、教学院理事会が予定されていたために、東京から宗務庁へ向かうはずだったが、新幹線の運休で足止めを食らい、急きょ東京事務所に出勤、東京事務所から宗務庁職員らに指示を与えた。予定されていた教学院理事会、児教連事務局の会合などは中止となった。社会局では各教区とも電話がかからないために、取りあえず電報による見舞い状を各教区に送ったほか、正確な情報の収集に全力を挙げたいとしている

▽電話回線がパニック状態であるために、被害状況の情報は断片的にしか入らないが、十七日現在、宗務庁と総本山知恩院で把握している情報によると、貴田康住兵庫教区教区長の自坊・西連寺（西宮市馬場町）の本堂が全壊したという情報が本人から知恩院に入っているという。また、佛教大学専任講師の佐藤心岳氏の自坊・西安寺（西宮市産所町）も半壊、松永寿秀氏の自坊・常春寺も本堂が半壊したとの情報が入っている。また、小林憲雄宗議会議員の自坊・東極楽寺（神戸市中央区）も大きなダメージを受けたという情報が入っているという（電話が不通のために確認はとれていない）。芦屋市の河北光順氏が住職を務める芦屋市の親王寺では、東側のマンションが倒れて本堂の屋根を損傷したという

▽自坊・真光寺が被害の広がった神戸市東灘区本山にある藤井真隆知恩院財務部長は十六日から知恩院に宿直。朝から自坊に電話を入れたが、なかなか電話がかからず、家族の安否が心配された。同日午後になってようやく連絡がとれ、家族は無事だったという。建物の倒壊などの被害はなかったが、内部の荘厳などが散乱しているという。大阪市にある寺本哲栄執事長の自坊・竹林寺でも大きな被害はなかったものの、寺内の荘厳などが散乱したという連絡が入っている

▽総本山知恩院では、勢至堂でしっくい壁が一部剥落したほか、部分的に瓦が緩んでいるという程度という。瓦の緩みなど今後、落下が心配されるため引き続き点検作業を行なうとしている。

被害の確認は数日要する

●**禅林寺派** 同派でも京都、大阪、兵庫の各府県に寺院が多く、地震による被害状況が心配されている。十七日、宗務所では、各宗務支所長に電話連絡を入れたものの電話回線がパニック状態で、ほとんど連絡が不能の状態。各寺院からの連絡もほとんどなかったという。確認はなお数日を要するだろうという。